

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校, 中学校)

第3編 単元(題材)ごとの学習評価について(事例)

【案】

第1章 「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成

- 1 本編事例における学習評価の進め方について
- 2 単元の評価規準の作成のポイント

第2章 学習評価に関する事例について

- 1 事例の特徴
- 2 各事例概要一覧

事例

第1章 「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成

1 本編事例における学習評価の進め方について

各教科の単元（題材）における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、以下のように進めることが考えられる。なお、複数の単元（題材）にわたって評価を行う場合など、以下の方法によらない事例もあることに留意する必要がある。

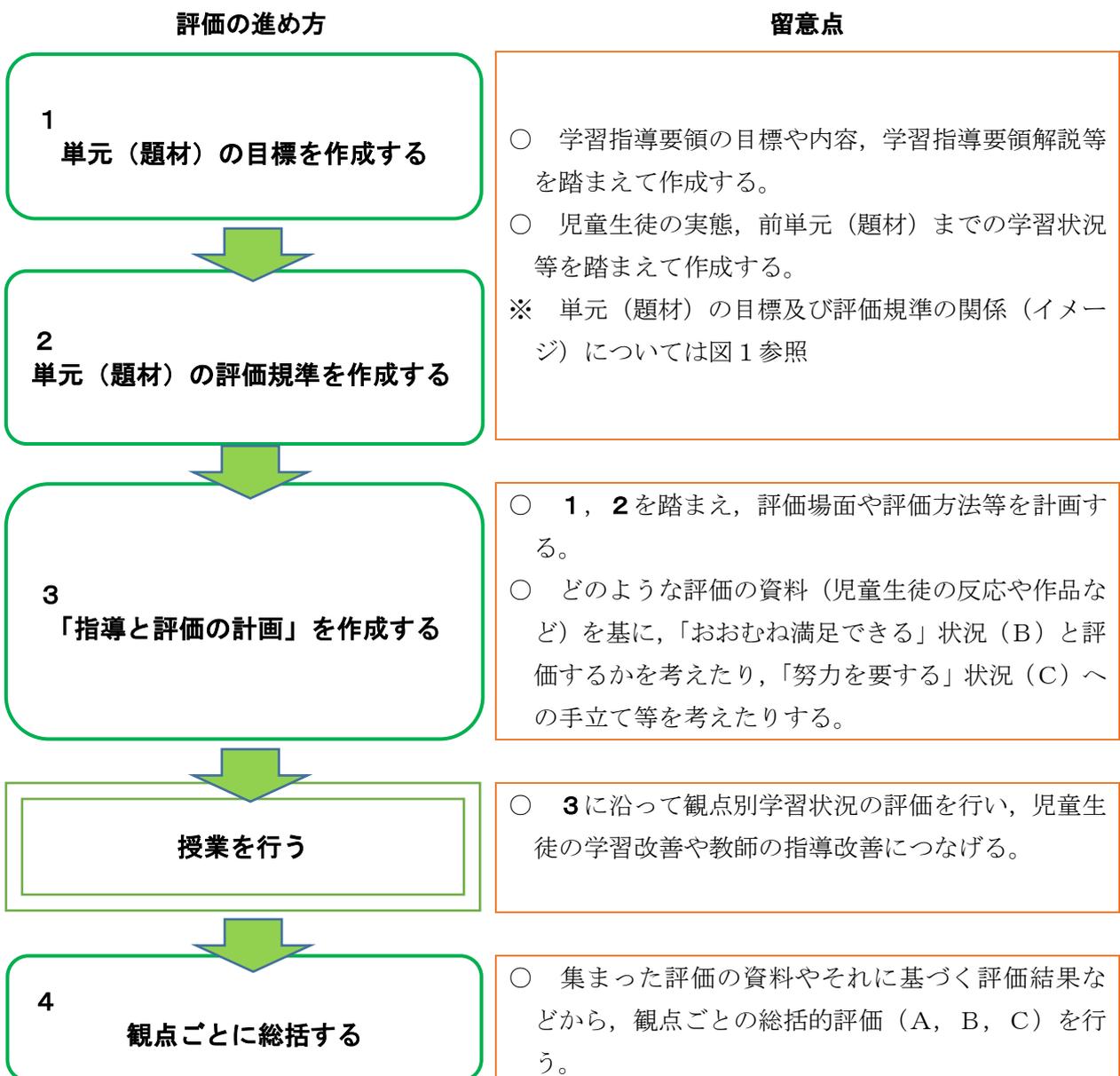
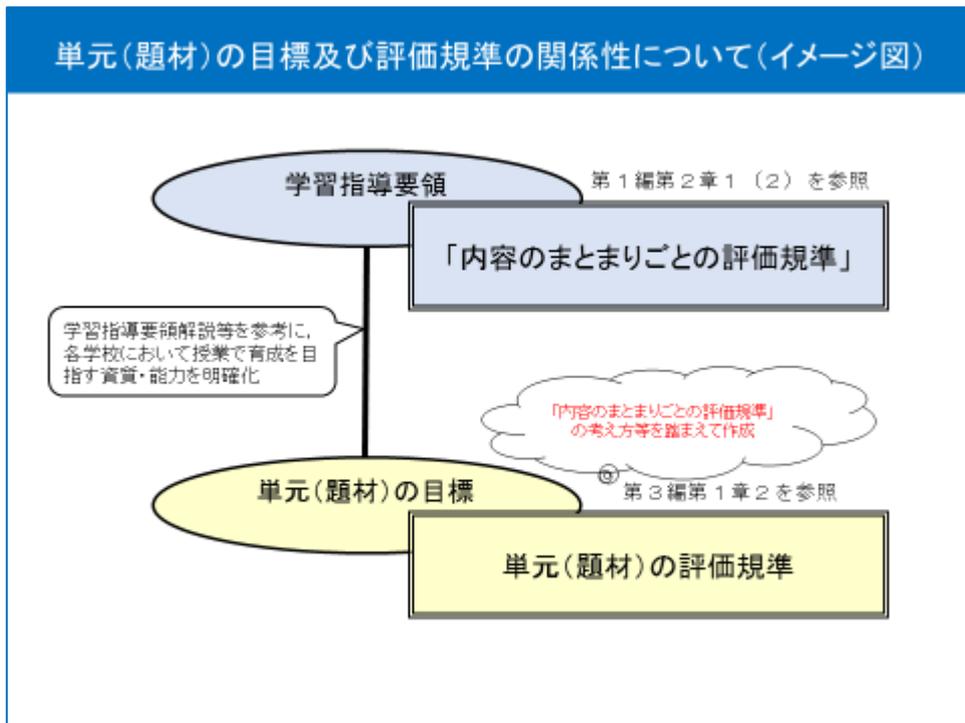


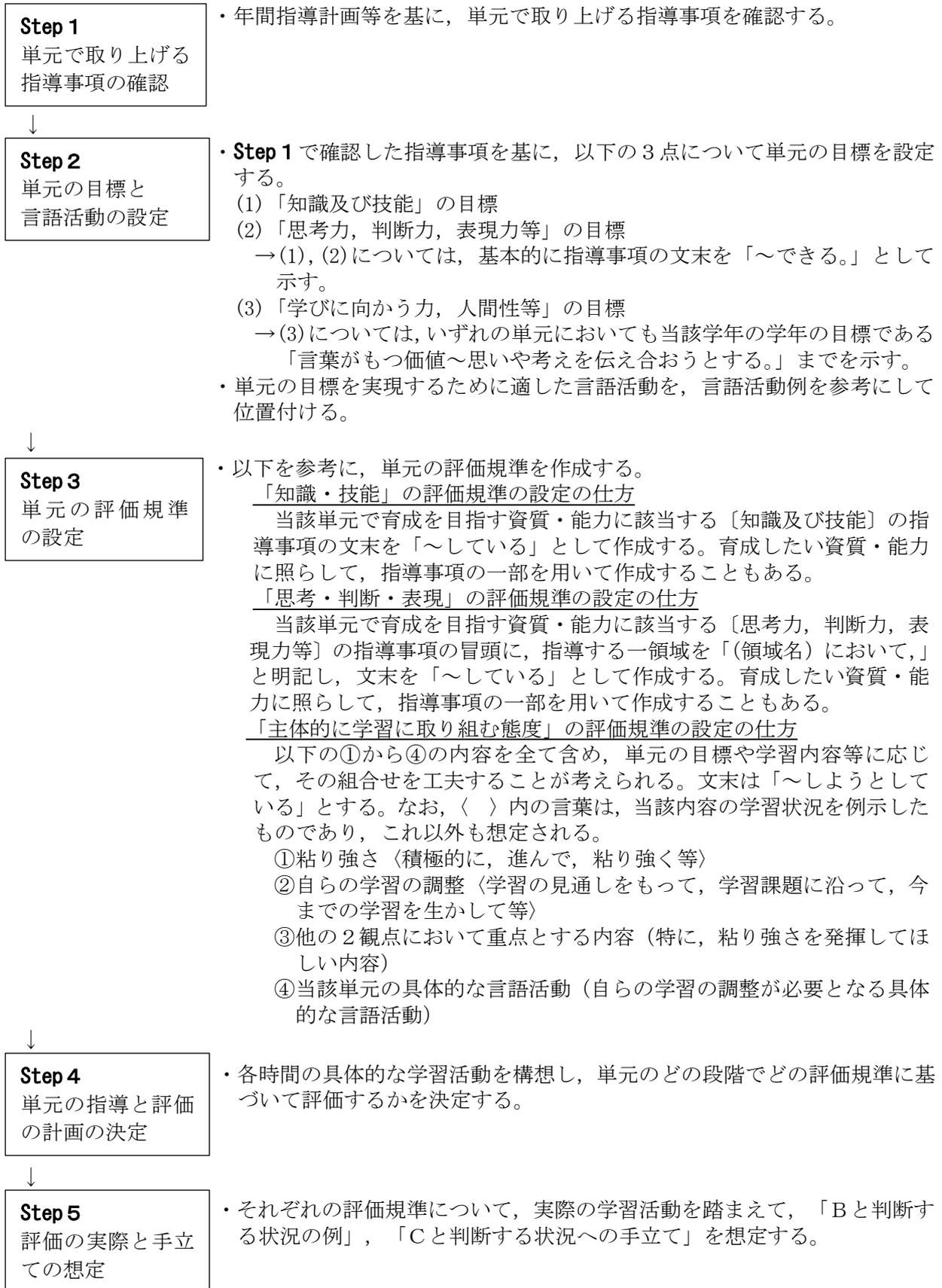
図 1



※ 調整中

2 単元の評価規準の作成のポイント

中学校国語科においては、次のような流れで授業を構想し、評価規準を作成する。



(各事例の記載について)

各事例の主な特徴をキーワードで示している。いずれの事例も、3観点の評価について掲載している。

「単元名」は、どのような資質・能力を育成するために、どのような言語活動を行うのが生徒に分かるように工夫している。「単元名」の付け方は、4事例を通して複数のパターンを示している。

該当する指導事項を示すことで、学習指導要領の指導事項との関連を明確にしている。

単元の「指導と評価の計画」の全体像を簡易に示し、どの時間に何を評価するのかを整理している。

単元の流れ(各時間の詳細)を具体的に示している。

「単元の評価規準」について、評価する場面と評価方法、及び「Bと判断する状況の例」を示している。「Bと判断する状況の例」の書き方は、4事例を通して複数のパターンを示している。

《授業例》において、どのように学習を評価したのか、その実際を《本授業例における評価の実際》として詳しく説明している。

国語科 事例2
 キーワード 「主体的に学習に取り組む態度」の評価、ICTの活用

単元名
 投書を書こう
 ～多様な読み手を想定して文章全体を整える～
 第3学年 B書くこと

内容のまとめり
 第3学年
 【知識及び技能】(2)情報の扱いに関する事項
 【思考力、判断力、表現力等】「B書くこと」

《授業例》

1 単元の目標
 (1) 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア
 (2) 目的や意図に応じた表現になっているかを確認する。(B(1)エ) (思考力、判断力、表現力等) B(1)エ
 (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

2 本単元における言語活動
 関心のある事柄について、投書を書く。(関連:【思考力、判断力、表現力等】B(2)ア)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア	①「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確認して、文章全体を整えている。(B(1)エ)	①進んで文章全体を整え、今までの学習を生かして自分の考えを投書に書こうとしている。

4 指導と評価の計画(4時間)

時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○ 関心のある事柄から新聞に投書する題材を決め、自分の意見と根拠をワークシートに書いて整理する。	[知識・技能] ①	ワークシート
2	○ 投書の下書きをワープロソフトで入力する。 ○ グループで下書きを読み合い、分かりにくい部分等について確認し合う。		
3	○ 投書にふさわしい表現について考える。 ○ 読み手の立場に立って自分の下書きを読み、目的や意図に応じた表現になっているかを確認する。	[主体的に学習に取り組む態度] ①	下書き原稿
4	○ 前時に考えたことを基に、ワープロソフトの校閲機能を用いて推敲する。 ○ 推敲した文章を教師に提出し、希望者は清書したデータを投稿する。	[思考・判断・表現] ①	推敲した文章

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○ 学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○ 関心のある事柄から新聞の投書で伝えたい題材を決める。 ○ 伝えたい自分の意見と根拠、根拠に関連する具体的な出来事	・実際の投書をいくつか示し、学習の見通しをもたせる。 ・実際の投書を参考にさせ、伝えたい内容を考えさせる。 ・既習の「情報と情報との関係」について想起させ、意見と根拠、根拠に関連する具体的な出来事や事実を整理させる。	[知識・技能] ① ワークシート ・根拠に関連する具体的な出来事や事実

(略)

《本授業例における評価の実際》

5 観点別学習状況の評価の進め方
 本事例では、単元の評価規準を踏まえて設定したキーワードにより評価することを試みている。
 (1)【主体的に学習に取り組む態度】の評価
 本単元では、目的や意図に応じた表現になっているかを確認して、文章全体を整える力を身に付けさせることに重点を置いているので、文章全体を整える過程において特に粘り強さを発揮させたいと考えた。また、生徒が学習活動に取り組む中で、文章全体を俯瞰して捉えながら、文章の構成や表現の仕方等について今まで学習したことを生かし、多様な読み手に対して自分の考えが分かりやすく伝わる表現に整えようとするので、自らの学習の進め方を調整できるようにしたいと考えた。
 そこで、主体的に学習に取り組む態度の評価規準を「進んで文章全体を整え、今までの学習を生かして自分の考えを書こうとしている。」と設定し、「おおむね満足できる」状況(B)の例を、以下のキーワードによって具体的に想定した。

【キーワード】多様な読み手に自分の考えが分かりやすく伝わる表現の検討

第2章 学習評価に関する事例について

1 事例の特徴

第1編第1章2(4)で述べた学習評価の基本的な方向性を踏まえつつ、平成29年改訂学習指導要領の趣旨・内容の徹底に資する評価の事例を示すことができるよう、本参考資料における各教科の事例は、原則として以下のような方針を踏まえたものとしている。

○ 単元(題材)に応じた評価規準の設定から評価の総括までとともに、児童生徒の学習改善及び教師の指導改善までの一連の流れを示している

本参考資料で提示する事例は、いずれも、単元(題材)の評価規準の設定から、最終的に学習過程で得た評価情報を総括するまでとともに、評価結果を児童生徒の学習改善や教師の指導改善に生かすまでの一連の学習評価の流れを念頭においたものである。なお、各教科とも事例の一つは、この一連の流れを特に丁寧を示している。

○ 観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選について示している

報告や改善等通知では、学習評価については、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であり、観点別の学習状況については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選することが重要であることが示された。このため、観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選について、「指導と評価の計画」の中で、具体的に示している。

○ 評価方法の工夫を示している

各教科・科目の評価の中で、ワークシートや作品などの評価材料をどのように活用したかなど、教科の特性に応じて、評価方法の多様な工夫について示している。

2 各事例概要一覧

事例1 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

「新たに知った言葉を紹介する ～聞き手を意識して話す～」(第1学年)

第1学年〔思考力, 判断力, 表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」(1)ア・ウを, 言葉を紹介する言語活動を通して指導した授業における評価事例を紹介する。

本事例では, 中学校国語科における指導と評価の基本的な考え方について概説する。

事例2 キーワード 「主体的に学習に取り組む態度」の評価, ICTの活用

「投書を書こう ～多様な読み手を想定して文章全体を整える～」(第3学年)

第3学年〔思考力, 判断力, 表現力等〕の「B書くこと」(1)エを, ICTを活用して投書を書く言語活動を通して指導した授業における評価事例を紹介する。

本事例では, 主として「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法の一例を示す。

事例3 (作成中)

事例4 (作成中)

※ なお, いずれの事例も, 授業の一連の流れを示した上で, 評価の3観点(「知識・技能」, 「思考・判断・表現」, 「主体的に学習に取り組む態度」)について, 「Bと判断する状況」, 「Cと判断する状況への手立て」の例を示している。

国語科 事例 1

キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

単元名

新たに知った言葉を紹介する
～聞き手を意識して話す～

第 1 学年 A 話すこと・聞くこと

内容のまとめり

第 1 学年

〔知識及び技能〕(1)言葉の特徴や使い方に関する事項
〔思考力、判断力、表現力等〕「A 話すこと・聞くこと」

《授業例》

1 単元の目標

- (1) 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 [知識及び技能] (1)ウ
- (2) 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。 [思考力、判断力、表現力等] A(1)ア
- (3) 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] A(1)ウ
- (4) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

2 本単元における言語活動

新たに知った言葉を紹介する。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕A(2)ア)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)	①「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ②「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ)	①粘り強く表現を工夫し、学習の見通しをもって自分の考えを紹介しようとしている。

4 指導と評価の計画（5時間）

時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○ 「語彙手帳」(日頃から、新しく知った語彙を	[思考・判断・表現] ①	ノート

	書き留めている手帳)などから,自分が友達に紹介したい言葉を決める。		
2	○ 話し方の工夫について話し合う。	[主体的に学習に取り組む態度] ①	観察 ノート
3	○ スピーチの構想メモを書く。 ○ スピーチの練習を行う。		
4	○ スピーチの発表会を行う。	[思考・判断・表現] ② [知識・技能] ①	発表 ノート 語彙手帳
5	○ 他の人のスピーチを聞いて新たに知った言葉と用例を「語彙手帳」に書く。		

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○ 学習のねらいや進め方をつかみ,学習の見通しをもつ。 ○ 「語彙手帳」(あるいは書籍,教科書など)から,新たに知った言葉を紹介するという目的を踏まえて,候補とする言葉を選んだ理由・意味・用例・出会い・エピソードなどを整理しながら,友達に紹介する言葉を決める。	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに知った言葉を紹介するスピーチを2分程度で行うことを知らせる。各自で学習の進め方を考えることができるように,教師がスピーチのモデルを示す。 ・言葉を選ぶ際には,今回のスピーチの目的や場面,相手などにふさわしい言葉を考えさせる。 	<p>[思考・判断・表現] ① ノート</p> <p>・ここでは,紹介する言葉やその言葉に関するエピソードを,目的や場面,相手などを考えて整理しているかを確認する。</p>
2 ・ 3	○ 話し方の工夫について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・特に意識させたい「相手の反応を踏まえながら」表現を工夫するといった内容をスピーチで発揮できるように小学校から学習してきた話し方の工夫について想起させ,相手の反応を踏まえて話すにはどのようなことに気を付ければよいかを生徒自身に確認させる。 	
<p>話し合いの中で話題になると予想される話し方の工夫</p> <p>◎相手の反応を踏まえる(繰り返す,問いかける,話題を変える,説明の仕方や言葉を変える)</p> <p>・声量や声色 ・間の取り方 ・表情や身振り ・話の構成 ・相手の興味や関心をひく話題の選択 ・効果的な表現 など</p>			
	○ 選んだ言葉が相手に分かりやすく伝わるように,どのような話の構成でスピーチを	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートには,話の構成や要点,話し方の工夫などを記入させ,読み上げるための原稿に 	

	<p>するかを考え、ノートにメモする。</p> <p>○ 話す内容が決まったら別室に移動し、スピーチの練習を行う。</p> <p>○ 相手の立場に立って確認したり、友達にアドバイスを求めたりしながら、必要に応じてノートの内容を赤字で修正する。</p>	<p>ならないように指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別室には、タブレット端末数台と固定スタンドを用意し、生徒が自分のスピーチの様子を撮影し、自分自身でその様子を確認できるようにしておく（別室が用意できない場合は、教室の一角を練習コーナーにする）。 ・動画は、自分の確認だけでなく、友達に見せてアドバイスをもらう場合にも有効であることを伝え、効果的に活用させる。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度] ① 観察・ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、練習を通して相手に伝わるような表現の工夫を考え、発表会に間に合うように選んだ言葉を紹介しようとしているかを確認する。
<p>4 ・ 5</p>	<p>○ スピーチの発表会を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループに、A3程度のホワイトボード等を用意し、話し手が自由に使用できるようにしておく（必要に応じて紹介する言葉を書いたり、友達に書いてもらったりするなど、様々な使い方が考えられる）。 	<p>[思考・判断・表現] ② 発表・ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、実際のスピーチにおいて、相手の反応を踏まえて、表現を工夫しながら話しているかを確認する。
<p>発表会の流れと注意点</p> <p>○ 6人グループで、スピーチを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し手は、第2時で確認した話し方の工夫、特に「相手の反応を踏まえること」を意識してスピーチするよう心がける。 ・聞き手は、話し手が聞き手の反応を意識して言葉を変えたり、エピソードを加えたりするなどの工夫している点について、特に注意しながら聞く。 <p>○ グループ全員のスピーチ終了後に、話し手・聞き手それぞれの立場から話し方の工夫について気付いたことを記入する。</p> <p>○ 聞き手は、新たに知った言葉とその用例を考えて「語彙手帳」に記入する。</p>		<p>[知識・技能] ① 語彙手帳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、スピーチを聞いて新たに知った言葉を「語彙手帳」に書き留め、その言葉を適切な用例とともに記入しているかを確認する。 	
	<p>○ 発表会を振り返り、相手の反応を踏まえながら話すときの工夫を箇条書きで書き出し、それらがどのように分かり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返った内容について数人に発表させ、相手意識の重要性について確認させる。 ・以下の点について振り返らせ 	<p>[知識・技能] ① 語彙手帳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、スピーチを聞いて新たに知った言葉を「語彙手帳」に書き留め、その言葉を適切な用例とともに記入しているかを確認する。

	<p>やすさにつながっているか、また、話し手としてどのように分かりやすさにつながったかなどについてノートにまとめる。</p>	<p>ることも考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> －話し手として、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫するために試行錯誤したこと。 －本単元で身に付いた力やできるようになったこと。 －本単元で意識したこと。 －今後の学習や生活の中で生かせそうなこと。 －工夫しようとしたが、十分ではなかったこと。 など 	
--	--	--	--

《本授業例における評価の実際》

5 観点別学習状況の評価の進め方

本事例では、単元の評価規準に示された状況を、「ここでは、～しているか（～しようとしているか）を確認する。」という形で表し、生徒のどのような学習の状況（姿）で確認するかを明確にして評価することを試みている。

(1) [知識・技能] の評価

[知識・技能] ①の「事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている」状況を、『語彙手帳』に、新たに知った言葉とその意味を踏まえて適切な用例を記入できている」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、第4時に評価した。

本単元で使用している「語彙手帳」とは、生徒手帳や筆箱に入るサイズの折本である。新しく知った言葉をいつでも書き留められるようにするため、常に携帯することを基本としている。日常生活において、「語彙手帳」に書かれた言葉を使用したら○印を付けるようにすることで、語彙を増すだけでなく、使えるようにすることをねらいとしたものである。

例えば、生徒Xは、友達のスピーチを聞き、「敢行」という言葉を新たに知り、スピーチの

【語彙手帳】

The image shows a 'Vocabulary Notebook' (語彙手帳) with the following components:

- Cover:** Titled '語彙手帳1' (Vocabulary Notebook 1) with a green frog illustration and a space for '名前' (Name) and '学年' (Grade).
- Instruction Page:**
 - はじめに (Introduction):** States the notebook's purpose is to record new vocabulary words.
 - 《語彙手帳》の使い方 (Usage):**
 - Record words and examples as you encounter them.
 - Mark words you actually use with a circle (○).
 - Example (用例):** '金字塔' (Kinshi-tou) - A female athlete who won a gold medal at the 3rd Olympic Games and became the first Japanese person to reach the summit of Mount Everest.
 - Notes:** Encourage using words in class, on the spot, or in notes.
 - Requirement:** Mark words used in class with a circle.
- Layout Diagram:** Shows a notebook with 9 numbered pages (1-9) and a central diamond-shaped pocket for the example page.
- Usage Grid:** A table with three rows and one column, each labeled '用例' (Example) for recording words.

内容から、「周囲の反対を押し切って、世界一周の旅を敢行した。」という用例を「語彙手帳」に書き込んだ。また、これまで否定的な意味で使用していた「潮時」という言葉について本来の意味を知り、「今が、新しいことを始める潮時だ。」という用例を書き込んだ。どちらも適切な用例であるため、「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。

一方、「敢行」の用例を「念のため敢行した。」、「潮時」の用例を「潮時だから仕方ない。」のように記入するなど、用例として適切ではないものを「努力を要する」状況（C）と判断した。このような生徒については、言葉の意味を辞書等で確認させ、どのように用いるとよいのかを具体的な場面を想定して記入できるように指導した。

（2）【思考・判断・表現】の評価

【思考・判断・表現】①の『話すこと・聞くこと』において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している」状況を、「紹介する言葉を決め、目的や場面、相手などを考えて、その言葉に関するエピソードなどの話す材料を整理しながらスピーチの内容を検討している」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、第1時に評価した。

ここでは、生徒自身が以下の点を踏まえながらスピーチの内容を検討しているかどうかを見た。

- ・目的（自分が新たに知った言葉を伝えたい、友達の役に立ちそうな言葉を知らせたい、言葉を共有したいなど）
- ・場面（6人グループの中で2分程度のスピーチをする）
- ・相手（グループ内の聞き手の特徴）

例えば、生徒Yは、四字熟語がかっこいいからという理由で「日進月歩」を紹介しようとしていた。しかし、「皆にとって新しい言葉だろうか」、「かっこいい言葉より役に立つ言葉を知らせるほうがスピーチの目的に合っているのではないか」と目的や相手を考え、「中学生という節目にふさわしい言葉である」という理由から「登竜門」という言葉に変更した。

【生徒Yのノートの記述】から、「登竜門」という言葉に関する自分のエピソードを書き出し、その言葉の意味を改めて確認し、友達に伝える内容を考えているため、「おおむね満足できる」状況（B）と判断した。さらに、「登竜門」という言葉について調べることを通して、「立身出世」という新たな言葉に気が付き、その意味を記述している。その状況を「興味の広がり」（後述する【評価メモ】にある「Aと

【生徒Yのノートの記述】

① 日進月歩

- ・四字熟語がかっこいい。
- みんな 知ってほしい。役に立つ言葉か。

○ 登竜門

- ・中学生という節目にふさわしい。
- ・くじけそうな時に出合った言葉なので知らせる価値あり。
- ・部活動の先生「ここが登竜門だ」
- ・登竜門の意味：立身出世のための関門。
- ・「竜門」は中国の黄河中流の急流で、これを登った鯉は竜になるとい
う言い伝えがある。
- ・中学校生活も人生の登竜門。初めてのテストも登竜門。
- ・難しい言葉を使うのが中学校生活への登竜門。

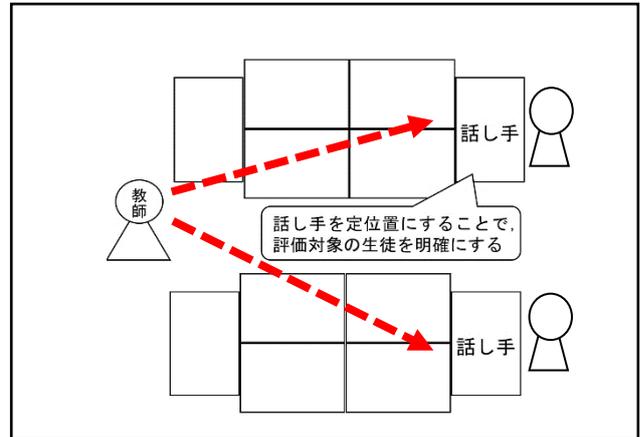
← 立身出世も新たな言葉？…高い地位に就き、有名になること。

判断するポイントの例」参照)と捉え、「十分満足できる」状況(A)と評価した。

紹介したい言葉を羅列しているだけの場合は、「努力を要する」状況(C)と判断した。このような場合には、その言葉とどのようにして出会ったか、なぜその言葉を紹介したいと思ったのか、紹介したい言葉の意味や成り立ちなどをノートに書き出させ、スピーチで伝えたいことについて考えさせた。

【思考・判断・表現】②の『話すこと・聞くこと』において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している」状況を、「実際のスピーチにおいて、相手の反応を踏まえて問いかけたり、発言を繰り返したり、説明の仕方を変えたりしている」姿(「おおむね満足できる」状況(B))と捉え、第4時に評価した。その際、音声表現の評価を効率的に行えるように、右図のように座席の配置を工夫した。また、難しい漢字が使用されていたり聞き慣れない熟語であったりする言葉を選んだときに、ホワイトボードを補助的に使っていることも表現の工夫として捉えた。

【評価の効率化のための座席の工夫例】



さらに、ノートに表現の工夫等を記入させる際に、以下の指示を行うことで、教師が効率的に評価できるよう工夫した。

- ・意図的に表現の工夫をしようと考えている部分について※印を付けて記入すること
- ・練習での相手の反応やアドバイスによって変更した部分は赤ペンで書き込むこと (【生徒Zのノートの記述】ではゴシック部分が該当)

【生徒Zのノートの記述】

○拝読という言葉、知っていますか。
 ※聞き手を引き付けるため、問いかけから入る。
 ○先日、父が電話口で「ハイドクしました」と話していた。
 ※もっと友達に関心をもってもらいたい

例えば、生徒Zの実際のスピーチでは、聞き手の「拝読とはどう書くのか」というつぶやきに気が付き、ホワイトボードに「拝読」と書いて説明するなど相手の反応を踏まえて話している状況が観察できた。【生徒Zのノートの記述】を確認すると、当初は「拝読という言葉、知っていますか」という始まりだったが、練習を通して単なる問いかけより実際の体験から話を始める方がもっと友達に関心をもってもらえるという判断から変更し、相手の興味を誘うような導入の工夫を行ったことが分かる。これらのことから「おおむね満足できる」状況(B)と評価した。

「努力を要する」状況(C)と判断した例としては、例えば、故事成語を紹介するためにホワイトボードに絵を書いて説明したが、終始絵を見ながら話してしまい相手の反応を確認できない場合等である。このような場合には、タブレット端末等で録画して自分のスピーチを確かめるように指導し、次回のスピーチや発表時に注意する点を確認させた。

(3) [主体的に学習に取り組む態度] の評価

[主体的に学習に取り組む態度] ①の「粘り強く表現を工夫し、学習の見通しをもって自分の考えを紹介しようとしている」状況を、「練習を通して相手に伝わるような表現の工夫を考え、発表会に間に合うように選んだ言葉を紹介しようとしている」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、第3時に評価した。例えば、スピーチ練習を繰り返して表現の工夫を考えたり修正を加えたりしている姿から主として粘り強さを、その中で、表現の修正を行いながら発表会に間に合うようにスピーチを整えようとしている姿から主として自らの学習の調整を確認した。

なお、言語活動を評価するのではないことに留意する必要がある。

6 観点別学習状況の評価の総括

本単元では、以下のような【評価メモ】を作成し、生徒の学習の状況を整理した。「おおむね満足できる」状況（B）と判断する状況の例（姿）と、「十分満足できる」状況（A）と判断するポイントの例を示した点に特徴がある。各評価の観点において、「Bと判断する状況」を満たした上で、「Aと判断するポイントの例」のいずれかを満たしていれば「十分満足できる」状況（A）とした。

[思考・判断・表現]については、単元における観点別学習状況の総括を行っている。例えば、生徒Yについては、本単元で重点的に指導し評価する内容（次ページの◎印が該当する）を踏まえ、[思考・判断・表現]の「単元における評価」は「おおむね満足できる」状況（B）と総括した。

【評価メモ】

観点	[知識・技能]	[思考・判断・表現]	[主体的に学習に取り組む態度]
Bと判断する状況の例	①スピーチを聞いて新たに知った言葉を「語彙手帳」に書き留め、その言葉を適切な用例とともに記入しているか	①紹介する言葉やその言葉に関するエピソードを、目的や場面、相手などを考えて整理しているか ②実際のスピーチにおいて、相手の反応を踏まえて、表現を工夫しながら話しているか	①練習を通して相手に伝わるような表現の工夫を考え、発表会に間に合うように選んだ言葉を紹介しようとしているか
評価の材料	・語彙手帳	・ノート	・発表 ・ノート
Aと判断するポイントの例	・速やかさ ・丁寧さ ・集団への寄与 ・興味の広がり ・応用・活用の意識 など		
生徒X	B	B	A
生徒Y	A	A	B

7 年間指導計画に基づいた評価の系統化・重点化

国語科においては、一つの指導事項を年間で複数回繰り返し取り上げて指導することが多い。それは国語科の指導内容が螺旋的・反復的に繰り返しながら資質・能力の定着を図ることを基本としているからである。そのため、年間を見通して当該単元の目標や単元の評価規準を設定することが重要になる。

以下に、第1学年の[思考力、判断力、表現力等]「A話すこと・聞くこと」の年間指導計画表の例を示した。この表では、縦軸に指導事項及び言語活動例を示し、横軸に単元名を示している。

指導事項の○印は、当該単元で指導し評価する内容を表し、◎印は、特に重点的に指導し評価する

内容を表している。また、●印は、その単元で取り上げる言語活動例を示している。

なお、〔知識及び技能〕については、他の領域の指導でも取り上げている。そのため、全体を一覧することができる年間指導計画表の作成が必要である。

「年間指導計画表」の例

〔第1学年〔思考力、判断力、表現力等〕「A話すこと・聞くこと」の一部を抜粋〕

		No	1	2	3	4	
第1学年	単元名	□ □ □ □ □ □ □	□ □ □ □ □ □ □	□ □ □ □ □ □ □	□ □ □ □ □ □ □	□ □ □ □ □ □ □	
	指導事項・言語活動例						
		指導時数	4	5	4	5	
〔知識及び技能〕	(1)	ア	音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。	◎			
		イ	小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。				○
		ウ	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。		◎		
		エ	単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。	○			
	(2)	オ	比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。			○	
		ア	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。			○	
	(3)	イ	比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。				○
		ア	音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。				
		イ	古典には様々な種類の作品があることを知ること。				
		ウ	共通語と方言の果たす役割について理解すること。				
		エ	書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。 (イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。				
		オ	読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。				
〔思考力、判断力、表現力等〕	(1)	ア	目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。		○		○
		イ	自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えること。	○		◎	○
		ウ	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。		◎	○	
		エ	必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。	◎			
	オ	話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。			○	◎	
	(2)	ア	紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動。		●		●
イ		互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う活動。 (上記以外の言語活動)	●		●		

国語科 事例2
キーワード 「主体的に学習に取り組む態度」の評価, ICTの活用

単元名
投書を書こう
 ～多様な読み手を想定して文章全体を整える～
第3学年 B書くこと

内容のまとめり
第3学年
 [知識及び技能] (2)情報の扱い方に関する事項
 [思考力, 判断力, 表現力等] 「B書くこと」

《授業例》

1 単元の目標

- (1) 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。
[知識及び技能] (2)ア
- (2) 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えることができる。
[思考力, 判断力, 表現力等] B(1)エ
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力, 人間性等」

2 本単元における言語活動

関心のある事柄について、投書を書く。(関連：[思考力, 判断力, 表現力等] B(2)ア)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)	①「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。(B(1)エ)	①進んで文章全体を整え、今までの学習を生かして自分の考えを投書に書こうとしている。

4 指導と評価の計画(4時間)

時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○ 関心のある事柄から新聞に投書する題材を決め、自分の意見と根拠をワークシートに書いて整理する。	[知識・技能] ①	ワークシート
2	○ 投書の下書きをワープロソフトで入力する。 ○ グループで下書きを読み合い、分かりにくい部分等について確認し合う。		
3	○ 投書にふさわしい表現について考える。 ○ 読み手の立場に立って自分の下書きを読み、目的や意図に応じた表現になっているかを確認する。	[主体的に学習に取り組む態度] ①	下書き原稿

4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に考えたことを基に、ワープロソフトの校閲機能を用いて推敲する。 ○ 推敲した文章を教師に提出し、希望者は清書したデータを投稿する。 	[思考・判断・表現] ①	推敲した文章
---	--	--------------	--------

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○ 関心のある事柄から新聞の投書で伝えたい題材を決める。 ○ 伝えたい自分の意見と根拠、根拠に関連する具体的な出来事や事実をワークシートに書き、整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の投書をいくつか示し、学習の見通しをもたせる。 ・実際の投書を参考にさせ、伝えたい内容を考えさせる。 ・既習の「情報と情報との関係」について想起させ、意見と根拠、根拠に関連する具体的な出来事や事実を整理させる。 	<p>[知識・技能] ① ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠に関連する具体的な出来事や事実
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの書くことの学習を想起し、投書の下書きをワープロソフトで入力する。 ○ グループで互いの下書きを読み合い、分かりにくい部分について確認し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この段階では、目的や意図に応じた表現にこだわらずに、下書きを完成させることを目標とする。 ・学校の ICT 環境に応じて、タブレット端末を交換させたり、座席を移動させたりするなどして、他の生徒が書いた下書きを読ませ、読みにくいと感じたり分かりにくいと思ったりした部分に~~~~~線を引いてコメントを入力させる。 	<p>本時は、B (1) ウに基づいて学習状況を捉え指導を行うが、単元の目標としていないことから、本単元の評価には含めない。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師が用意した投書を読み、投書にふさわしい表現について考える。 ○ 投書にふさわしい表現について考えたことを伝え合う。 ○ 読み手の立場に立って自分の下書きを読んで、投書を書くという目的に応じた表現になっているかを確認し、気が付いたことをワープロソフト 	<ul style="list-style-type: none"> ・第3学年の「書くこと」で学習してきた文章の構成や表現の仕方などに着目させ、投書を書く目的や意図に応じた表現とはどのようなものかを考えさせる。 ・2～3人で共有した後、学級全体で共有する。 ・投書にふさわしい文章の構成や表現の仕方について共有したことを踏まえ、前時の~~~~~線の部分を中心に、自分の下書きの表現を確認させる。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度] ① 下書き原稿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な読み手に自分の考えが分かりやすく伝わる表現の検討

	<p>のコメント機能を用いて入力する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・確かめて気が付いたことを基に、文章全体をどのように整えたいかを「～が分からない(伝わってこない)。だから～したい(する)。」等のように入力させる。 	
<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時に考えたことを基に、ワープロソフトの校閲機能を用いて、自分の下書きを推敲する。 ○ 推敲した文章を教師に提出する。希望者は清書し終わったデータを投稿する。 ○ 単元の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校閲機能を用いて、修正の跡を残しながら書かせる。 ・コメントや校閲機能による修正の跡が残っているデータを印刷して教師に提出させる。 ・提出後、希望者は、修正の跡を消して清書したデータを、新聞社のウェブサイト等から投稿してもよいこととする。 ・目的や意図に応じた表現に整えるために、どのように試行錯誤をしたのかを振り返らせ、本単元で学んだことを、今後の学習でどのように生かしたいかを考えさせる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[思考・判断・表現] ① 推敲した文章</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な読み手に自分の考えが分かりやすく伝わる表現 </div>

《本授業例における評価の実際》

5 観点別学習状況の評価の進め方

本事例では、単元の評価規準を踏まえて設定したキーワードにより評価することを試みている。

(1) [主体的に学習に取り組む態度] の評価

本単元では、目的や意図に応じた表現になっているかを確認して、文章全体を整える力を身に付けさせることに重点を置いているので、文章全体を俯瞰し、多様な読み手に対して自分の考えが分かりやすく伝わる表現に文章を整えようとする過程で特に粘り強さを発揮させたいと考えた。また、文章の構成や表現の仕方等について今まで学習したことを生かして自分の考えを投書に書く活動の中で、自らの学習の進め方を調整できるようにしたいと考えた。

そこで、主体的に学習に取り組む態度の評価規準を「進んで文章全体を整え、今までの学習を生かして自分の考えを書こうとしている。」と設定し、「おおむね満足できる」状況(B)の例を、以下のキーワードによって具体的に想定した。

【キーワード】多様な読み手に自分の考えが分かりやすく伝わる表現の検討

実際に評価する場面では、表現を整えられたかどうかを見取るのではなく、自分の下書きを読み直

して試行錯誤をしながら表現を整えようとしているかどうかを見取り、必要に応じて生徒への指導を行って学習の改善を促したいと考えた。そこで、第3時に下書きの文章の構成や表現の仕方を確かめる際に、生徒がワープロソフトのコメント機能を用いている様子や書いている内容を【キーワード】により評価し、必要に応じて指導を行った。その後、下書き原稿を印刷して提出させ、それを【キーワード】によって評価した。

次の【生徒Pがコメントを書き込んだ下書きの例】では、コメント[P1]で、投書の読み手は様々な立場にあたり多様な考えをもっていたりすることを想定し、書き出しでは自分の考えを示すのではなく、具体的な体験を述べることで自分の考えが分かりやすく伝わる表現にしようとしている。また、コメント[P2]、「P3」は他の生徒からの指摘である。それらを踏まえて、コメント[P4]では、資料を適切に引用することで読み手に対する説得力を高めようとしている。これらのことから、【キーワード】に該当すると判断した。

【生徒Pがコメントを書き込んだ下書きの例】

<p>テレビで、自動車の危険な運転のニュースが連日のように流れている。それは、心のゆとりのなさによって起きてしまうのではないだろうか。</p>	<p>コメント [P1]: いきなり自分の考えが書いてあるので、この考えに賛成しない人は、読むのをやめてしまうかもしれない。最初は自分が体験した出来事から書き始め、物語のように話を進めることで、分かりやすく自分の考えを伝えられるようにしたい。</p>
<p>先日、いつも通る信号のない横断歩道に近づくと、車がこちらに向かって走ってきた。私は、車が通り過ぎるのを待とうと思い、立ち止まった。すると、その車はゆっくりと止まってくれたのだ。私が会釈をして渡ろうとすると、車を運転していた人は笑顔で返してくれた。</p>	<p>コメント [P2]: 誰の言葉？ (山田)</p>
<p>一生道を譲り続けても合計は百歩にもならないという言葉が教えてもらったことがある。私は、笑顔で道を譲ってもらったとき、心が温まった。ちょっとした譲り合いが、私たちの心を温めてくれる。譲り合う気持ちを大切にしてみませんか。</p>	<p>コメント [P3]: 誰から？ (佐藤)</p> <p>コメント [P4]: 誰から教えてもらったのかが分からないので、学校の先生から教えてもらったと書く。 先生に確認して、正確に紹介することで説得力を高めたい。</p>

なお、【キーワード】に該当すると判断したもののうち、多様な読み手に自分の考えが分かりやすく伝わる表現について、特に丁寧に検討しようとしているものを、「十分満足できる」状況(A)とした。

一方、次の【生徒Qがコメントを書き込んだ下書きの例①】は、推敲する際に教師に助言を求めてきた生徒の例である。生徒Qは、マナーを守る人が増えていけば、みんなが気持ちよく過ごせる世の中になっていくはずだと考えていた。しかし、下書きに入力したコメントは、自分の考えを多様な読み手に分かりやすく伝える表現を検討するものとはなっていなかった。そこで、生徒Qに対して、「あなたの決意を書くように修正しようとしているけれど、あなたは、新聞の投書で自分の個人的な決意を伝えたいのですか。それとも、何か世の中の人に行動してほしいことがあって、この投書を書こうと思ったのですか。あなたの目的に応じた修正の仕方になっているかどうかを見直してみましょう。」と助言した。

【生徒Qがコメントを書き込んだ下書きの例①】

挨拶や食事に限らず、様々な場面でマナーについて考えさせられる。マナーの良しあしは何によって決められるのか。まずは、図書館や電車、バスといった公共の場所で考えてみる。これらの場所では、大きな声で話していたり、物音を立てたりしている人はあまり見かけない。それは、多くの人がいるのもあるけれど、自分一人が利用しているわけではないと考えているからではないだろうか。

そして、人との会話も、マナーの一つなのだと思う。人の話を聞くときには相手の目を見るし、ほかのことをやりながら聞かれると、気分がよくなりほしくない。

つまり、マナーとは、だれかと関わる上で、お互いに気分良く過ごせるためのものなのだと考える。

コメント [Q1]: 読み手は、「だから何なのか?」と思うかもしれない。「これから日常生活でマナーを守って過ごしていきたい。」というように自分の決意でしめくくことで、読者に自分の思いを伝えたい。

その結果、次の【生徒Qがコメントを書き込んだ下書きの例②】のように改善された。【生徒Qがコメントを書き込んだ下書きの例②】では、コメント [Q 1] で、読み手が文章の冒頭から共感しながら読むことができるように、文章の構成を修正しようとしている。また、コメント [Q 2] で、自分の考えが読み手に分かりやすく伝わるように、結びの一文を修正しようとしている。これらのことから、【キーワード】に該当すると判断し、「おおむね満足できる」状況 (B) とした。

【生徒Qがコメントを書き込んだ下書きの例②】

挨拶や食事に限らず、様々な場面でマナーについて考えさせられる。マナーの良しあしは何によって決められるのか。まずは、図書館や電車、バスといった公共の場所で考えてみる。これらの場所では、大きな声で話していたり、物音を立てたりしている人はあまり見かけない。それは、多くの人がいるのもあるけれど、自分一人が利用しているわけではないと考えているからではないだろうか。

そして、人との会話も、マナーの一つなのだと思う。人の話を聞くときには相手の目を見るし、ほかのことをやりながら聞かれると、気分がよくなりほしくない。

つまり、マナーとは、だれかと関わる上で、お互いに気分良く過ごせるためのものなのだと考える。

コメント [Q1]: 「マナーがよくない」と思った出来事 (電車の中で騒いでいた人たちのこと) から書き始め、投書の読者にも「そういうことってある」と共感してもらおう。その後、いつも私の目を見ながら話を聞いてくれるZさんのことを書き、読み手にマナーとは何かを考えてもらいたい。

コメント [Q2]: 相手のことを考えて行動することができれば、相手も自分も気分がよくなる。そんな世の中にしていきませんかと呼びかける。

(2) [知識・技能] の評価

『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説国語編』107 ページには、「具体と抽象の関係について理解を深めるとは、具体と抽象という概念を理解するとともに、具体的な事例を抽象化してまとめたり、抽象的な概念について具体的な事例で説明したりすることができるようにすることである。」と示されている。このことを踏まえ、今回の単元では、既習である具体と抽象など情報と情報との関係について理解したことを活用して、自分の意見の根拠について具体的な事例で説明できるようにしたいと考えた。

そこで、具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めているかどうかを評価するため

に、「おおむね満足できる」状況（B）の例を、以下の【キーワード】によって具体的に想定した。

【キーワード】 根拠に関連する具体的な出来事や事実

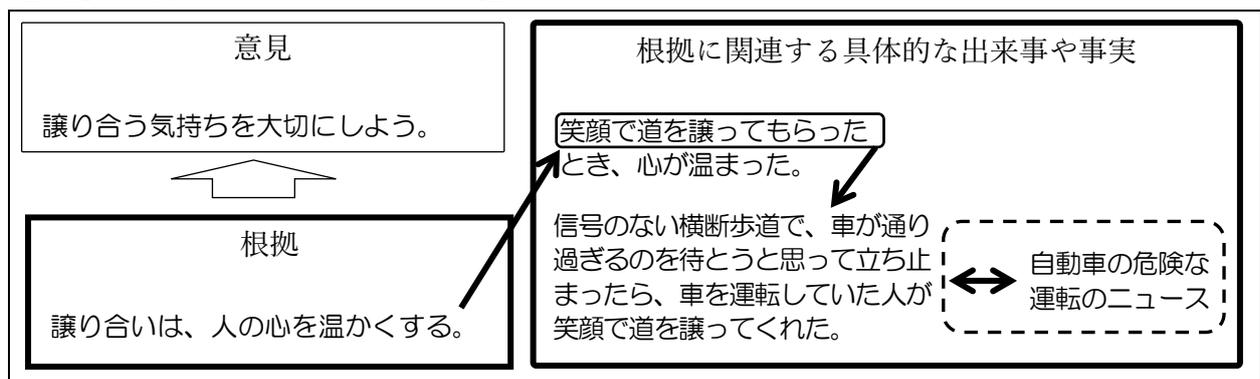
第1時で実際に評価する場面では、生徒が意見と根拠をワークシートに整理する際に、ワークシートに書かれた記述を【キーワード】により評価し、必要に応じて指導を行った。その後、提出させたワークシートの記述を【キーワード】によって評価した。

次の【生徒Pが記入したワークシートの例】では、根拠の「譲り合いは、人の心を温かくする。」に関連する具体的な出来事として「笑顔で道を譲ってもらったとき、心が温まった」体験とその時の具体的な状況を記入していることから、【キーワード】に該当すると判断した。

生徒Pに対して、「今、あなたが考えている事例は根拠に関連していてよく書けていますが、一事例だけではなく、他の事例も考えられませんか。」と助言した。

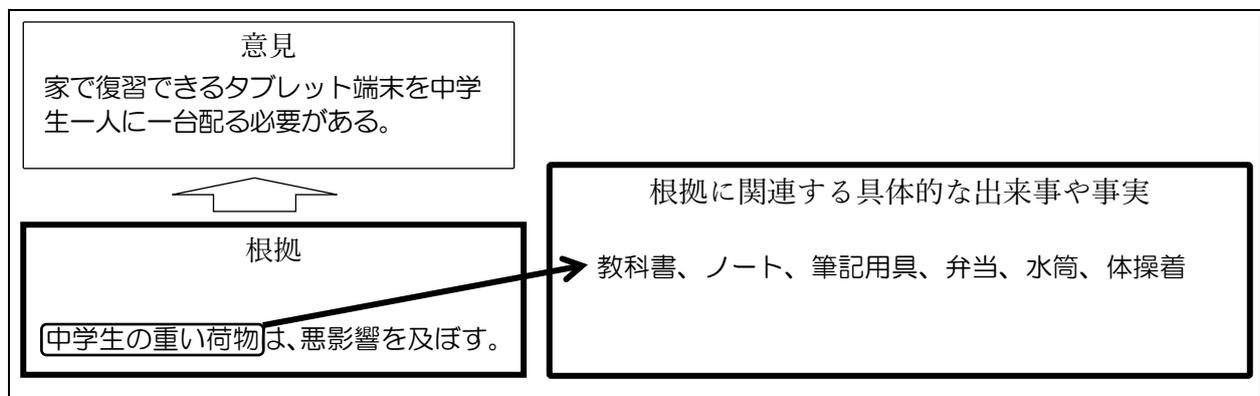
その結果、[]の部分のように、自分が体験した出来事とは対照的な出来事として「自動車の危険な運転のニュース」を付け加えた。このことにより、【キーワード】に加え、複数の具体的な出来事や事実を関連付けて説明していると判断し、「十分満足できる」状況（A）とした。

【生徒Pが記入したワークシートの例】



一方、次の【生徒Rが記入したワークシートの例】では、根拠として記述している「悪影響を及ぼす」という抽象的な内容に関連する具体的な出来事や事実が示されていない。そのため、【キーワード】には該当せず、生徒Rは「努力を要する」状況（C）にあると判断した。

【生徒Rが記入したワークシートの例】



そこで、生徒Rに対して、「重い荷物ではなく、その荷物による悪影響として、具体的にどのようなことがありますか。実際にあった出来事や事実を書きましょう。」と助言した。このように、自分の意見の根拠について、具体化すべき箇所をつかめず、関連する具体的な出来事や事実を示して説明するこ

とが不十分な場合には、具体化すべき箇所を指摘するとともに、その内容と関連してどのような出来事や事実があるのかを想起させ、生徒が具体と抽象の関係について理解を深められるようにした。

(3) [思考・判断・表現] の評価

本単元では、第3学年の書くことで学習してきた文章の構成や表現の仕方を基に、目的や意図に応じた表現になっているかを確かめて、文章全体を整える力を身に付けさせたいと考えた。

そこで、不特定多数の読者に自分の考えを伝えるという「投書」の性質を踏まえ、多様な読み手に対して自分の考えが分かりやすく伝わる表現になっているかを確かめて、文章全体を整えているかどうかを評価するために、「おおむね満足できる」状況(B)の例を、以下の【キーワード】によって具体的に想定した。

【キーワード】多様な読み手に自分の考えが分かりやすく伝わる表現

第4時で実際に評価する場面では、生徒がワープロソフトの校閲機能を用いて推敲している記述を【キーワード】により評価し、必要に応じて指導を行った。その後、推敲が終わった文章を印刷して提出させ、それを【キーワード】によって評価した。

次の【生徒Pが推敲した文章の例】では、書き出しを下線部①のように書き改めている。このことにより、読み手が「うれしいことというのは一体何だろうか。」と文章の内容に興味をもちながら読み進めることができるようになっている。そして、道を譲ってもらったエピソードの後に、それとは対照的な自動車の危険な運転の話題へと転換することで、自分の考えが読み手に分かりやすく伝わる文章の構成となっている。また、下線部②では、中国の古典の言葉を正確に引用することで、説得力を高めている。これらのことから、【キーワード】に該当すると判断した。

【生徒Pが推敲した文章の例】

~~テレビで、自動車の危険な運転のニュースが連日のように流れている。それは、心のゆとりのなさによって起きてしまうのではないだろうか。~~

① 先日、下校時にうれしいことがあった。いつも通る信号のない横断歩道に近づくと、車がこちらに向かって走ってきた。私は、車が通り過ぎるのを待とうと思い、立ち止まった。すると、その車はゆっくりと止まってくれたのだ。私が会釈をして渡ろうとすると、車を運転していた人は笑顔を返してくれた。

テレビで、自動車の危険な運転のニュースが連日のように流れている。それは、心のゆとりのなさによって起きてしまうのではないだろうか。「一生道を譲り続けたとしても、それでも合計は百歩にも満たない。」^②ならないという中国の古典の言葉を学校の先生から教えてもらったことがある。ちょっと道を譲ったとしても大きな損はないと思えば、心にゆとりが生まれるはずだ。^③

私は、笑顔で道を譲ってもらったとき、心が温まった。ちょっとした譲り合いが、私たちの心を温めてくれる。譲り合う気持ちを大切にしてみませんか。

コメント [P1]: いきなり自分の考えが書いてあるので、この考えに賛成しない人は、読むのをやめてしまうかもしれない。最初は自分が体験した出来事から書き始め、物語のように話を進めることで、分かりやすく自分の考えを伝えられるようにしたい。

コメント [P2]: 誰の言葉? (山田)

コメント [P3]: 誰から? (佐藤)

コメント [P4]: 誰から教えてもらったのが分からないので、学校の先生から教えてもらったと書く。先生に確認して、正確に紹介することで説得力を高めた。

なお、下線部③は、第4時で推敲する際に、新たに修正されたものである。この一文を加えるとともに、次の文から段落を変えたことにより、ニュースの話題と中国の古典の言葉との関連が明確になっている。このことから、【キーワード】に加え、多様な読み手に対して特に分かりやすく自分の考えが伝わる表現に整えていると判断し、「十分満足できる」状況（A）とした。

一方、次の【生徒Sがコメントを書き込んだ下書きの例】では、前時に記入したコメント [S1] を踏まえ、百人一首がいつ生まれ、どのように伝わってきたかについて調べたこと等を基に加筆したのだが、この部分が全体の半分近くを占めるようになってしまった。そのため、読み手にとっては何を伝えたいのかが分かりにくい文章になっている。これらのことから、【キーワード】に該当しておらず、生徒Sは「努力を要する」状況（C）にあると判断した。

【生徒Sがコメントを書き込んだ下書きの例】

<p>新聞で「世界王者 取った!」という競技かるた世界大会の記事を読み、うれしくなりました。私は、百人一首が好きで、小学生の頃は友達と競技かるたを題材としたマンガのまねをして遊んでいました。まだ百首覚えきれていないけれど、全部覚えて世界中のいろいろな人と勝負したいと思っています。</p> <p>百人一首がは一般に「小倉百人一首」として知られていますが、鎌倉時代に藤原定家がまとめたもので、戦国時代になると、百人一首が「かるた」として遊び始められますが、はじめは宮中とか諸大名の大奥などで行われ、それが年間行事となったようです。江戸時代に入り、木版画の技術の発展などによって、庶民の中に徐々に広まっていき、現代にも、子供から大人までだれでも楽しむことができる遊びとして受け継がれています。海外の人たちにも伝わり、世界大会が行われたというのはとても素晴らしいことだと思います。これからも、世界に広まって行ってほしいです。</p>	<p>コメント [S1]: 日本で古くから楽しまれてきた伝統文化が海外の人にも楽しんでもらえているから、とても素晴らしいという私の考えが読み手に伝えられていない。百人一首がいつ生まれ、どのように伝わってきたかを説明したい。</p>
---	--

そこで、生徒Sに対して「百人一首の歴史を加えたことで、百人一首の歴史や伝統がよく分かるようになりました。でも、あなたが伝えたかったのは、百人一首の歴史ですか。それとも、百人一首が海外の人に伝わっていることの素晴らしさですか。自分の考えを読み手に分かりやすく伝えるために、文章全体の情報量のバランスを工夫してみましよう。」と助言した。

その結果、第2段落が「小倉百人一首は、鎌倉時代初期に生まれ、昔の人たちの知恵で、かるたとして遊べるように工夫され、現代まで伝えられてきたものです。この日本の伝統的な文化が、海外の人たちにも伝わり、世界大会が行われたというのはとても素晴らしいことだと思います。これからも、世界に広まって行ってほしいです。」と修正された。このことにより、日本の伝統的な文化が海外の人たちに伝わることの素晴らしさを伝えたいという生徒Sの考えが、読み手に分かりやすく伝わるようになったため、【キーワード】に該当すると判断し、「おおむね満足できる」状況（B）とした。